全国高校総体

明徳女子 準V

青井と白山8強入り

全国高校総合体育大会（インターハイ）第23日は16日、富山市総合体育館などで行われ、卓球の女子団体決勝で、明徳義塾は四天王寺（大阪）に0－3で敗れ、11年ぶりの優勝はならなかった。四天王寺は8大会連続（中止の昨年を挟む）25度目の優勝を果たした。2005～12年に男子の青森山田がつくった最多連続記録に並んだ。男子は愛工大名電（愛知）が野田学園（山口）を3－2で退け、5連覇を決めた。

シングルスは男子の篠塚大登（愛工大名電）、女子の横井咲桜（四天王寺）らが順当に8強入りしたほか、明徳女子の青井さくら、白山亜美も準々決勝に進んだ。

このほかの県勢はハンドボール男子の高知中央が1回戦で湯沢（秋田）に28－26で勝って、インターハイで初の白星を手にした。女子の土佐は1回戦で埼玉栄に12－44で初戦敗退した。

16日のスポーツ

卓球（富山市総合体育館）

▽男子団体決勝

愛工大名電（愛知）3－2 野田学園（山口）

（愛工大名電は5大会連続19度目の優勝）

▽同シングルス2回戦

田中京太郎（静岡・静岡学園）3 16－14 12－10 9－11 11－9 1 安江光博（明徳義塾）

新名亮太（明徳義塾）3 11－2 11－4 4－11 11－7 1 永島健誠（佐賀・敬徳）

斉藤秀太（明徳義塾）3 11－7 11－7 11－5 7－11 1 牧志侑武（沖縄・宮古）

藤元駿（明徳義塾）3 11－4 11－3 11－9 0 原田敦生（長野・長野工）

▽3回戦

斉藤秀太 3 14－12 11－6 10－12 11－7 10－12 2 葛西啓功（静岡・静岡学園）

新名亮太 3 11－7 11－7 11－8 0 杉山勝大（埼玉・埼玉栄）

溜大河（静岡・静岡学園）3 11－7 9－11 11－4 11－9 9－11 2 藤元駿

▽4回戦

斉藤秀太 3 12－10 9－11 11－4 11－8 1 大久保洸（北海道・北海道科学大高）

新名亮太 3 13－11 11－2 11－7 0 管琉乃介（石川・遊学館）

▽5回戦

谷垣佑真（愛知・愛工大名電）3 11－5 11－7 11－5 0 斉藤秀太

鈴木颯（愛知・愛工大名電）3 11－7 7－11 11－8 11－4 1 新名亮太

▽女子団体決勝

四天王寺（大阪）3 単2－0 複1－0 0 明徳義塾

横井 3 11－4 12－10 9－11 11－6 1 上沢依

菅沢 3 11－7 8－11 11－8 8－11 11－6 2 青井

横井 大藤 3 12－10 11－7 11－8 9－11 1 青井 白山

（四天王寺は8大会連続25度目の優勝）

▽同シングルス2回戦

上沢茉央（明徳義塾）3 11－8 9－11 11－5 7－11 11－5 2 岡野結衣（神奈川・横浜隼人）

小林芽依（佐賀・敬徳）3 11－8 7－11 11－5 11－7 1 横田心（土佐女）

白山亜美（明徳義塾）3 11－8 11－7 11－4 0 藤原優（広島・進徳女）

青井さくら（明徳義塾）3 11－1 11－3 11－4 0 斎藤萌果（山形・山形城北）

▽3回戦

青井さくら 3 11－8 11－9 11－3 0 木田美佑里（愛知・桜丘）

白山亜美 3 11－1 11－3 11－3 0 武山華子（神奈川・横浜隼人）

直江杏（島根・明誠）3 11－7 9－11 12－10 12－10 1 上沢茉央

▽4回戦

青井さくら 3 11－2 11－5 8－11 11－5 1 工藤真桜（広島・進徳女）

白山亜美 3 11－8 11－3 4－11 10－12 11－6 2 塚田姫桜（長野・中野西）

▽5回戦

青井さくら 3 11－4 9－11 11－1 11－5 1 吉井亜紀（岡山・就実）

白山亜美 3 11－7 11－6 7－11 7－11 11－8 2 買手日菜（北海道・札幌大谷）

【女子団体決勝 四天王寺－明徳義塾】粘りを見せたものの、1－3で敗れた明徳複の青井＝左＝と白山（富山市総合体育館）

最強女王の壁崩せず

個々の試合内容は互角に見えたし、選手も手応えを感じながら、戦っていた。だが、結果はストレート負け。3月の全国選抜大会準決勝で四天王寺に敗れ、雪辱に燃えていた明徳は、今度は決勝戦でその壁に阻まれてしまった。

相手は変幻自在だった。回転やモーションを変えて繰り出すサーブは読みづらく、返球が甘くなれば強打が来る。ラリーに持ち込んでも、正確にコースを突かれ、緩急に翻弄（ほんろう）された。大会7連覇中の高校最強女王は多くの引き出しを持っていた。

佐藤利香監督が言う。「このレベルになると『とりあえず(台に)入れる』じゃ駄目。いくら難しい球が来ても、強弱をつけるとかフェイクを入れるとか、精度の高いレシーブで対応しないと。一球一球に強い意図がないといけない」

第1単の上沢依はフォアとバックの両面で速く低いレシーブを続け、全日本ジュニア単2位の実力者から1ゲームを奪った。第2単の青井は相手主将をサーブで崩し、フォアで懐をえぐるなど、2－3と善戦し、青井と複を組んだ白山も、思い切りのいい強打で得点する。それぞれの武器は随所に光った。

「やってきたことは出し切れた。それでも足りなかった」と青井が天を仰げば、この日、出場しなかった上沢茉は「いつも手応えはあるのに、勝てない」と悔しがる。届きそうで届かない、小さいようで大きな差。必死に練習を続けても、今回は埋められなかった。

今大会、出番のなかった3年生が、裏方として主力の2年生を支えた。ベンチで声援を送った主将の藤沢が「この舞台に連れてきてくれてありがとう」と後輩に感謝すれば、2年生は「準優勝できたのは3年生のおかげ」。レギュラーも控えも一緒に戦う団結力は、今年も強固だった。

そして、2年生たちは再び「打倒四天王寺」を目指す。「選抜、インハイとチャンスは2回ある。勝ちます、絶対に」。青井が感情をあらわにして誓った。

（谷川剛章）

2021年8月17日 高知新聞